



CloudSense 分析の管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [CloudSense Analytics について, 1 ページ](#)
- [レポートの生成, 2 ページ](#)
- [アセスメントの生成, 3 ページ](#)

CloudSense Analytics について

Cisco UCS Director の CloudSense Analytics は、インフラストラクチャリソースの使用率、IT インフラストラクチャスタック全体にわたる重要なパフォーマンスメトリック、およびリアルタイムのキャパシティを可視化します。CloudSense は、仮想インフラストラクチャおよびクラウドインフラストラクチャのキャパシティのトレンド、予測、レポート、プランニングの性能を大きく改善します。

CloudSense を使用して次のレポートを生成できます。

- 顧客の課金レポート
- EMC のストレージインベントリ レポート
- NetApp のストレージインベントリ レポート
- グループごとの NetApp ストレージ節約量
- NetApp ストレージ節約量レポート
- ネットワークのインパクトアセスメントレポート
- 仮想コンピューティングインフラストラクチャの組織使用状況
- PNSC アカountの要約レポート
- グループの物理インフラストラクチャのインベントリ レポート
- ストレージの重複除外状況レポート

- グループのストレージ インベントリ レポート
- シンプロビジョニングされた領域レポート
- UCS データセンターのインベントリ レポート
- グループごとの VM アクティビティ レポート
- VMware ホストのパフォーマンス サマリー
- 仮想インフラストラクチャおよびアセット レポート



(注) これは、システムで使用可能なレポートの完全なリストです。しかし、ユーザのシステムで利用可能なレポート数はユーザ ロールによって異なります。デフォルトでは、[CloudSense] オプションは MSP 管理者に表示されません。システム管理者は MSP 管理者に対してこのオプションを有効にする必要があります。こうすることで、MSP 管理者がログインしたときに、顧客組織に関連するレポートのみが表示されます。

レポートの生成

はじめる前に

このタスクを実行する前に、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[CloudSense] > [レポート] を選択します。
- ステップ 2** 左側のパネルからレポートを選択します。
- ステップ 3** [レポートの生成] をクリックします。
- ステップ 4** [レポートの作成 (Generate Report)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[コンテキスト (Context)] ドロップダウンリスト	レポートを生成するグループを選択します。 (注) 管理者の場合は、管理者権限があるすべてのグループがこのドロップダウンリストに表示されます。たとえば、MSP 管理者の場合は、このドロップダウンリストには管理対象のすべての顧客グループが表示されます。このリストには、他のグループは表示されません。

名前	説明
[レポートラベル (Report Label)] フィールド	生成する他のレポートと区別するために、レポートにラベルを付けることができます。

- ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックします。
レポートはシステムで生成されます。この生成されたレポートには、あなたと管理対象のグループのユーザのみがアクセスできます。たとえば、MSP 管理者の場合、この生成されたレポートは他の MSP 管理者やグループには表示されません。

アセスメントの生成

はじめる前に

このタスクを実行する前に、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[CloudSense]>[アセスメント] の順に選択します。
- ステップ 2** [仮想インフラストラクチャ アセスメント レポート] をクリックします。
- ステップ 3** [レポートの生成] をクリックします。
このステップにより、新しいインスタント レポートが HTML 形式または PDF 形式で生成されます。

